

Hope 希望を持ち
Only one かけがえのない自分を磨き
Try 未来に向けて努力する
勉強にスポーツに「熱く」なる場所
一人ひとりの「ほっと」できる場所

太良高校 HOT通信

学校ホームページ



(QRコード)

スクールニュース



(QRコード)

入試説明会

10月24日(土)に令和3年度入試の説明会が実施されました。中学生生徒28名、保護者33名、教員7名の参加で会が行われました。
当日は、寒い朝でしたが、快晴でした。体育館で開会式が行われた後、4グループに分かれて、面接体験、入試問題の体験をしました。体験参加者は緊張した面持ちでしたが、面接では元気な声も聞かれ、また、入試体験では真剣に問題を解いていました。それぞれのグループは交代で面接体験、入試体験を全員で行い、途中の休憩時間には希望者が化学室で学校説明会に参加していました。
その後、再び体育館に戻り、第2部の入試説明会が行われました。説明後、質疑応答が行われ、閉会となりました。希望者は学校施設を見学したり、個別面談に参加しました。



10月19日(月)6限目の防災訓練が行われました。今年度は、コロナウイルス感染症拡大のため、例年行われていた消防署員による講話ができなくなり、専門の署員による客観的な講評がいただけず、大変残念でしたが、現在できることを生徒と職員で行いました。最初に、それぞれのクラスにおいて、電子黒板を用いて訓練の目的や津波時の避難経路などを確認しました。その後、地震発生時

の行動訓練が始まりました。いつもは運動場に避難しますが、今年度は中庭に避難をしました。生徒たちは、担任・副担任の引率により、滞りなく避難することができました。中庭に到着し、各クラス点呼が終了し、全員の安全が確認されました。

次に行われたのは、左の写真の「消火訓練」です。最初に職員が説明し、女性職員の手で消火器を火災(に見立てた看板)のそばに持って行って消火を行いました。次に男性職員が消火器を同じように持って行きましたが、「火が強いようです」というアナウンスを聞いて消火器を投げ出してユーモラスに逃げ出していました。「そうです。火が強いときは、自分の命を大切に！」というアナウンスが続き、生徒たちにも笑顔が浮かびました。その後、男子生徒・女子生徒が消火活動を的確に行いました。

最後に、避難シミュレーターを使って脱出する訓練が行われました。右の写真です。職員・生徒がくると回転しながら、中庭に降りてきました。降りた職員は、「ゆっくり降りてきているようだったが、垂直に落ちていく感じが少し怖さを感じました」と感想を言っていました。
近年、災害が頻発しています。ここ太良の地も例外ではありません。まさかの時に冷静な行動がとれるように、この訓練が生きたものになればよいと感じました。

防災訓練



UDL研修会

10月24日(土)午後2時40分より、福岡教育大学の納富恵子教授をお招きして、本校パソコン室にてUDL研修会が行われました。教授にはテンポ良く熱意ある講演をしていただきました。「通常学級でも学びに苦しむ子どもたちは数多く見られる。そのような子どもたちを対象にしたUDL教育を進めていくと、学びに苦しむ子どもだけでなく、周囲の子どもたちにも良い効果が波及して、全体の理解度が高まっていく」というお話に、深く納得させられました。教授の講演は、まさに本校が今後すすんでいくべき方向を指し示す指針となるものでした。大変有意義な講演会であったと思います。
※「UDL」とは、「学びのユニバーサルデザイン」のことです。個々の学習者のユニークな性質と違いを調整し、進歩する力を最大に引き出すことです。



就職試験、始まる

今年度、コロナウイルス感染症のため、遅れていた就職試験が10月16日ようやく解禁されました。生徒たちはこれまで、例年とは違う日々の生活にとまどい、不安を感じていたことだと思えます。それでも、夏休みからこの方、この日を迎えるために日々の努力を続けて参りました。特に3年生担任団を中心として、一人一人の後押しをして、志望動機を完成させ、面接の練習に励んできました。「志望動機」に何度もダメ出しをされて、頭を抱えている生徒もいました。誤字、脱字が見つかり、何度も書類を書き直している生徒もいました。また、暗くなるまで、様々な教室で大きな生徒たちの声が聞こえました。何度も続ける内に、次第に答えも上手になり、改善点を指摘されると素直に受け入れて、内容も練られたものになっていきました。毎日、管理職に「明日、〇〇に就職試験に行つて参ります。」と報告に来る姿を見るようになります。「元気に発言する生徒、自信に満ちあふれた生徒、自信がないようにうつむいて報告する生徒、様々な様子です。どの生徒に対しても、職員は「がんばってきてください！」と激励して送り出しています。
本校に入学して、すでに2年半が過ぎた生徒たち。入学した当時は、まだ幼いところも多くありましたが、心も身体も次第に成長してきました。この学校で過ごす日々も、それほど残されている訳ではありません。3年間の高校生活を通して最も大切なことはやはり、「進路実現」です。それぞれの生徒が未来の理想をつかむために頑張っています。「人生に成功や失敗など無い」という考え方もありますが、できることならば、生徒たちには、その最初の段階を無事にクリアして、社会という大海にスムーズに飛び立ってほしいという思いがあります。全ての生徒が卒業までに、笑って「合格しました」という進路実現報告をできるように、全職員あげて生徒たちをフォローして参ります。保護者の皆様におかれましても、何卒、ご協力をお願いいたします。